

拠点名称：「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点

代表機関	長崎大学	プロジェクトリーダー	征矢野 清 長崎大学 海洋未来イノベーション機構 機構長・教授
幹事自治体	長崎県	幹事機関	協和機電工業(株)
参画機関	長崎総合科学大学、高知大学、活水女子大学、東京海洋大学、北海道大学、琉球大学 長崎市、日東製網(株)、(株)島津製作所、京セラ(株)、KDDI(株)、(株)ジャパンアクアテック、(株)極洋、 (株)シーエーシー、福伸電機(株)、東京産業(株)、古野電気(株)、フィード・ワン(株)、(株)十八親和銀行、 東京海上日動火災保険(株)		

プロジェクトの概要

本事業は、「養殖DXの推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現」をビジョンに掲げ、ブリ養殖を柱とした新たな養殖産業を長崎の地から創出し、それによって雇用が生まれ、若者が定着し活気づく地域の構築を目指す。ブリ養殖の技術を高度化し、海外への「JAPAN 鰯」販売も視野に入れた生産販売体制を整えるためには、最新の水産学、海洋工学、社会科学からの総合知を導入した分野横断的イノベーションが必要である。「作業を変える」、「育て方を変える」、「働き方を変える」の3つの視点から養殖業の産業化を推し進め、日本人の魚食の回復と世界中の人々の健康に貢献する持続的水産食料生産の拠点を長崎に形成する。

「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点

ビジョン：養殖DXの推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現

ターゲット1：「作業を変える」
生産者の作業負担を軽減する
養殖技術開発

ターゲット2：「育て方を変える」
海の生物と環境への負荷を軽減する
養殖技術開発

ターゲット3：「働き方を変える」
若者が魅力を感じる
水産プラットフォームの構築

研究開発課題1
高度管理型養殖システムの開発
・沖合養殖システム
・海中ロボット（AUV）
・養殖クラウドマネジメントサービス
⇒沖合養殖システム構築

研究開発課題2
環境保全型養殖技術の開発
・新技術によるブリ種苗生産技術
・新たな疾病予防技術
・効果的給餌技術
・ブリ種苗センター
⇒人工種苗を用いた生産体制構築

研究開発課題3
経営構造の改革と水産業活性化の推進
・ビジネスモデルの策定
・産地マルシェ設置
・海外戦略
⇒「JAPAN 鰯」販売体制構築

研究開発課題4
次世代を担う若者の育成
・小中高生の意識づけ
・アントレプレナー教育
・リカレント教育
⇒新たな水産人材育成プログラム





拠点名：「ながさきBLUEエコノミー」 海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点

ビジョン：養殖DXの推進により、若者が集まり活気づく海と生きる地域社会の実現

社会動向：・水産業の衰退/魚食の低迷/後継者（若者）不足

プロジェクト外での取り組み：養殖による水産再生/1次産業DX

ターゲット1：「作業を変える」
生産者の作業負担を軽減する養殖技術開発

ターゲット2：「育て方を変える」
海の生物と環境への負荷を軽減する養殖技術開発

ターゲット3：「働き方を変える」
若者が魅力を感じる水産プラットフォームの構築

研究開発課題1：高度管理型養殖システムの開発
中間目標（4年目）沖合養殖システムの沿岸域での実証、（5年目）クラウドマネジメントサービス始動、（6年目）海中ロボットの実用化、（8年目）沖合養殖システム実証
PoC目標（9年目）沖合養殖システム構築

研究開発課題2：環境保全型養殖技術の開発
中間目標（4年目）新たな給餌方法の確立、（5年目）人工種苗センター始動、新たな種苗生産技術、（6年目）プリ専用飼料の供給、（8年目）新たな疾病予防法投入、A5ランクプリの生産
PoC目標（9年目）人工種苗を用いたプリの高度生産体制の構築

研究開発課題3：経営構造の改革と水産業活性化の推進
中間目標（4年目）ビジネスモデルの策定、（5年目）海外戦略の策定、（7年目）産地マルシェ設置、（10年目）JAPAN鰯海外販売
PoC目標（8年目）地産地消/新たな販売コンセプトの導入/プリ販売体制の構築

研究開発課題4：水産業を担う若者の育成
中間目標（5年目）人材育成プログラムの基盤および体制整備、（6年目）人材育成プログラム策定、（10年目）人材育成プログラム運用
PoC目標（10年目）水産海洋プログラムへの受講生10名/年受け入れ

課題目標（10年目）沖合でのJAPAN鰯の本格生産開始/消費拡大/地域活性化



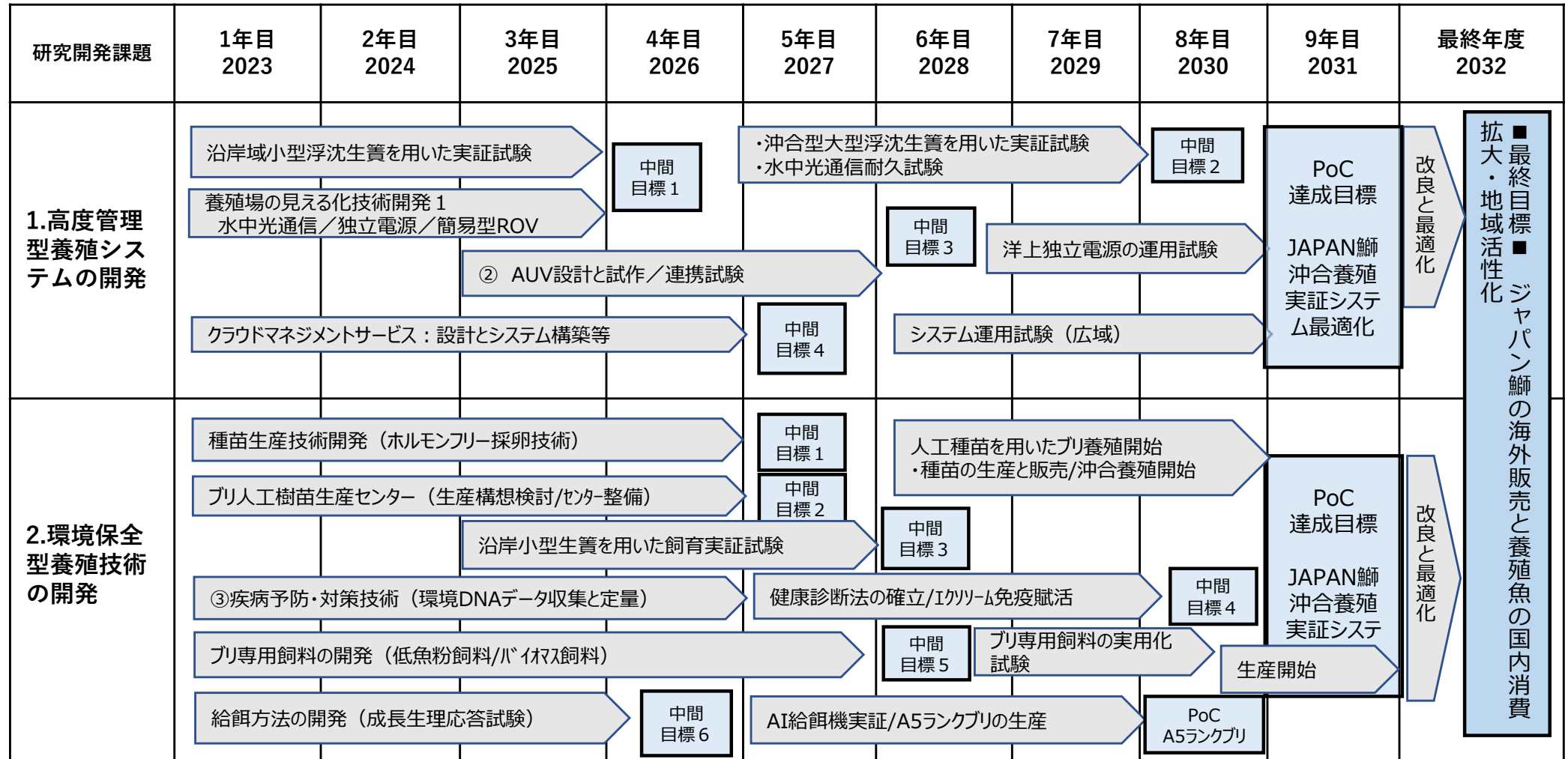
ゴール：養殖業の産業化
→ プリ養殖拠点の形成による地域活性化（雇用の拡大）
→ JAPAN鰯プロジェクト始動（プリの海外販売）

30年後に目指す高度に管理された養殖による安全安心な水産食料資源の持続的確保と魚食大国へのスタート

拠点名称：「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点
代表機関：長崎大学
プロジェクトリーダー：征矢野 清(長崎大学海洋未来イノベーション機構長／教授)

研究開発課題1「高度管理型養殖システムの開発」の目標		年度
中間目標 1	沖合養殖システムの沿岸域での実証	2026
中間目標 2	沖合養殖の沖合実証システムの最適化	2030
中間目標 3	海中作業ロボットの実用化	2028
中間目標 4	養殖クラウドマネジメントセンター起業	2027
PoC達成目標	沖合養殖システム構築と最適化	2031
研究開発課題2「環境保全型養殖技術の開発」の目標		
中間目標 1	種苗生産技術開発（ホルモンフリー採卵技術）	2027
中間目標 2	ブリ人工種苗センター始動	2027
中間目標 3	沿岸小型生簀を用いた飼育実証試験	2028
中間目標 4	新たな疾病予防法の実装	2030
中間目標 5	ブリ専用飼料供給（低魚粉飼料を含む）	2028
中間目標 6	新たな効果的給餌方法確立（AI利用給餌を含む）	2026
PoC達成目標 1	A5ランクブリの生産	2030
PoC達成目標 2	人工種苗を用いた高度生産体制の構築	2031

研究開発課題3「経営構造の改革と水産業活性化の推進」の目標		年度
中間目標 1	地域課題の抽出／離島および漁村の活性化（ビジネスモデル策定）	2026
中間目標 2	産地マルシェ設置（地産地消/新たな販売コンセプト導入）	2029
中間目標 3	海外戦略策定	2027
中間目標 4	JAPAN鰯海外販売	2032
PoC達成目標	地産地消/新たな販売コンセプト導入/ブリ販売体制の構築	2030
研究開発課題4「次世代の水産業を担う人材育成」の目標		
中間目標 1	人材育成プログラムの基盤および体制整備	2027
中間目標 2	人材育成プログラム策定	2028
中間目標 3	人材育成プログラム運用	2032
PoC達成目標	水産海洋プログラムへの受講生10名/年受け入れ	2032
最終目標	JAPAN鰯の海外販売拡大と養殖魚の国内消費拡大による地域の活性化	2032

拠点名称：「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点**代表機関：長崎大学****プロジェクトリーダー：征矢野 清(長崎大学海洋未来イノベーション機構長／教授)**

研究開発課題	1年目 2023	2年目 2024	3年目 2025	4年目 2026	5年目 2027	6年目 2028	7年目 2029	8年目 2030	9年目 2031	最終年度 2032
3.経営構造 の改革と 水産業活性 化の推進	地域課題の抽出と課題設定			中間 目標 1	・ビジネスモデルの運用と持続性検証			PoC 達成目標 地産地消/ 販売コンセ プト プリ販売体 制の構築		
	離島/漁村の活性化 ・生産者型ビジネスモデル策定/販売者型ビジネス モデル策定/加工流通型ビジネスモデル策定									
	新規商材開発（国内向け）									
	中核施設整備 ・ステークホルダーとの意見交換/水産物関連イベント協力 → マルシェ設置合意形成						中間 目標 2	・実店舗（長崎 マルシェ）運用		
	海外戦略 ・市場調査/輸出戦略検討/戦略策定				中間 目標 3	・プリ海外販売調査		中間 目標 4		
	新規商材開発（海外向け）									
4.水産業の 次世代を担 う若者の育 成	人材育成:基 盤整備		産学官による人材育成体制の 整備		中間 目標 1					
	新たな人材育成カリキュラムの策定					中間 目標 2				
	人材育成プログラムの試行～運用開始～継続実施							PoC 達成目標 水産海洋プ ログラム受講 生10名/年	中間 目標 3	
■最終目標■ 国内消費拡大・地域活性化										
■最終目標■ ジャパン鰯の海外販売と養殖魚を柱とした地域産業に携わる若者の輩出										